

# クリスチャンプレイズチャーチのメッセージ



2013年7月7日 山上宝訓シリーズ(7) “平和をつくる者は幸いです。”

聖書:マタイの福音書 5章 1-10節 / 暗唱聖句:マタイの福音書 5章 9節



説教者; 鄭南哲 牧師

## <1. 平和の道具になる事を願いつつ >

愛するクリスチャンプレイズ教会の家族のみなさん！一週間も神の平安の中でお元気でしたか。今日はイエスキリストが教えてくださった山上での祝福の御言葉の中で7番目の“平和を作るものは幸いです”という内容について一緒に考えて見たいと思います。愛するみなさん！ イスラエルの人たちはイエス様の時代からいまに至るまで相変わらず、“シャーロム”とあいさつをまわします。この意味は何でしたか。“シャーロム”という言葉の意味は‘神様の平和(平安)があなたとともにありますように’という意味です。私たちがいつも人々に会ったらまず相手に神の平安と平和の挨拶と言葉で交わしましょう。その意味で、まず、となりの人と‘シャーロム’とあいさつをまわしましょう。

(# 平安, 平和(ギリシャ語の聖書には:エイレイネ)は英語の聖書だと全部 peace の意味で使われています。)

例)みなさんはアシシのプランシスコの「平和の祈り」を御存知ですか。

**主よ！ わたしを平和の道具として用いてください。**

**憎しみのあるところに愛を、争いのあるところに和解を**

**分裂には一致を、疑いには信仰を**

**誤りには真理を、絶望には希望を**

**悲しみには喜びを、闇には光をもたらすことができますように。**

**主よ！わたしたちがあれこれ求めることをやめ**

**かえって**

**慰められることよりも慰めることを**

**理解されようとするよりも理解することを**

**愛されようとするよりも愛することを**

**望ませてください。**

**恵みのうちに恵みを受け赦しのうちに**

**赦され死のうちに永遠に生きるのだから。**

この平和の祈りは 1200 年代、ヨーロッパ全土は十字軍戦争が起きようとしている戦争の直前のざわめく雰囲気その場でした。その時ヨーロッパには自称、神様を信じていると言っている人たちがモスLEMにたいする憎しみとこのろいのメッセージが言いちらされてきました。この風潮によって人たちの心には‘ムスリムたちを殺そう、エルサレムを奪還するためにはムスリムたちを全滅しなければならぬ。それが神の御心に間違いはない！’といういかりの心が全ヨーロッパを支配していた時代でした。結局、その憎しみは約 200 年間の十字軍戦争の発端になってしまったのです。‘神の御名によって！この戦争は正義の戦争である’と言いながら神様を信じているというヨーロッパの指導者たちと民たちさえも憎しみにとらわれ隣人への敵対心に燃やしていたのです。どんなゆるしも、寛容もなくただ自分たちの意志だけが‘神様の御心’だとさげびながら、ほかの人たちを殺すための行進をはじめていたのです。ところがこの十字軍の行列をみながらある若い修道士はこの勇敢な予言をしたそうです。“この十字軍戦争はかならず敗北する。憎しみの動機からはじまった戦いを神様に喜ばされるはずがない。どんなに神様のためだと、神の御心だと主張していても、憎しみと敵対心が動機になっているかぎり神様の祝福をいただくことは決してないだろう。そういうわけで、この戦いはかならず敗北するはずだ！この修道士は隣人を殺しに行く人たちを見ながら、じっといられませんでした。そして自分なりにほかの十字軍を作りました。これがあの有名な‘平和の十字軍’でした。彼らは行列を並んでしずかに進みました。手には剣のかわり聖書をもって死んでいく敵軍を抱きしめて治療

しつづ彼らに謝罪しました。この平和の十字軍の指導者であったわかい修道士は戦争場に平和を伝えに行くためにいつもひざまずいてあの有名なアシシのプランシスコが祈っていた祈りを毎回さげたそうです。今日もみなさんは平和のためこのような祈りを日々求めていますか。今、平和をつくるためみなさんはどのぐらい祈り祈っています。今日も我々が神様と人々のあいだで平和を橋渡しする神様の子供たちとなりますように切に祈ります。“主よ、私を平和の道具として用いてください。私に平和の実を結ばせてください。” イエス様の御名によって祈ります。

## ＜2. 自分たちに真の平和をつくる力がないことを私たちは認めます。＞

しかし、事実私たちが生きている現実とこの世界を見てみるとまことの平和なんかあるのかという疑問があります。ある統計をみると、世界歴史の中でB. C. 36年から1968年まで、この世に知られている戦争だけで14,533回も起ったそうです。1945年度だけで70回くらいの戦争と200回くらいの国際的暴力事件が起き、国家間、共産主義や民主主義などのイデオロギーの対立と戦争が終わった時はやっと世界に平和がやってきたと勘違いしました。しかしむしろいまは戦争代わりに数多くのテロと暴力がますます最先端を走る時代になっているではありませんか。個人たちはどうですか。家庭の破壊はますます深刻になり、われらの子供たちと若者たちは脱線(だっせん)し、日本内にも、幼児や子供たちを対象にする犯罪はますます残酷になっているではありませんか。

みなさん! この世に真の平和がないならどうしてでしょうか。聖書は私たちにその理由についてはっきりと語っています。旧約聖書のイザヤ書 59:2 節です。どなたが読んでくださいますか。“あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。” つまり平和がないのは人間と神様との関係が断絶されたからであることです。人間関係において平和がない理由についてヤコブの手紙 4 章 1 節はこう言います。

“何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたの体の中で戦う欲望が原因ではありませんか。” 人々の間で争いなどの根本的原因は自己中心的、私たちの欲望のためだと聖書は指摘しています。

結局、私たちが罪の本性をもっているかぎり、一時的休戦(きゅうせん)はできるかも知れませんが、完全な平和をつくる事はできない事実を神様の御前で認めなければなりません。

ですから私たちはまず神様から与えられる真の平和を慕い求めなければなりません。私たちが信じるイエスキリストは平和の王としてこの地に来られました。私たちからではなく神様から与えられた真の平和であるイエスキリストをもって、崩されていて、分かれているところに立って、そこで私たちが平和をつくる者になるようにと神様は願っておられるのです。

## ＜ 3. 和解させてくださる我々の神様 ＞

聖書は平和を直接 400 回以上言及し、間接的にはもっとたくさんの箇所で行われています。

聖書は創世記のエデンの園での平和を初め、新約の黙示録では神様の御国の到来(とうらい)と平和で閉じられています。エデンの園での平和は人間の罪によってやぶられました。イエスキリストの十字架によってもう一度回復されました。イエス様は罪によって神様と断絶されている私たちのため十字架の血潮によって平和への道を開いてくださいました。新約聖書のコロサイ人への手紙 1 章 20 節をどなたが読んでくださいますか。

“その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。” イエス様が十字架を通して平和を完成された意味でイエス様は私たちの平和です。イエス様は十字架の血によって二つに分かれていたものを一つにし私たちに神様と和解させました。エペソ 2:13-14 節です。“しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリストイエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ち壊し。”

今日も平和の王であるイエス様は信じる私たちに平和をつくる者として生きるようにまず平安をくださいます。ヨハネの福音書 14:27 です。“わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。”復活された後も、イエス様はエマオという村に行く途中で二人の弟子たちに会ってまず “あなたがたに平安があるように”と祝福しました(ル

カ 24:36)。そして弟子たちがみな集って恐れている時もイエス様は来られて(ヨハネ 20:19-:21,:26)まず平和の挨拶をされました。“平安があなたがたにあるように”と

このように我々が信じている神様は平安、平和の神です(レビ記 26:6,第一列王記 2:33,詩篇 29:11,イザヤ書 9:6,エゼキエル書 34:25,ローマ人への手紙 15:33,第一コリント人への手紙 14:33,第2テサロニケ人への手紙 3:16)。私たちがその神様を信頼するとき、私たちは神様と和解しそれから信仰の生活は始まるのです。そして神様と和解した人たちに与えられる神様からのプレゼントがありますが、それが‘神様の平安’なのです。

#### ＜4. 適用:平和をつくる者になる方法＞

##### 1. 自己犠牲と和解の十字架の信仰と精神を实践する。

すると、もっと具体的に私たちが平和を保ち、体験するためにはどうすればいいでしょうか。

神の平和をつくるためにはなにより自己犠牲と和解の十字架の信仰と精神を实践しなければなりません。

十字架精神を实践するという事はまず物質より和解を大事にすることから始まります。

十字架の信仰と精神の一番大切なことは自分が死んで負けてあげることにより平和が勝つようにすることです。今日家庭内でも夫婦がお互い負けないようにし、教会内でも犠牲は払わず、自分は負けないで、死なないようにするため、平和がつけられるところか、さらにやぶられていくのではありませんか。ガラテヤ人への手紙 5 章 24 節ではイエスキリストを信じる私たちがどんな者なのか明瞭に記されています。“キリストイエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。”ととても矛盾に聞こえるかもしれませんが、私たちは自分の情欲や欲望を十字架につけてしまったため、まず自分を犠牲し、負けてあげる事によって平和をつくる者として勝利を得る事ができると信じます。

4 世紀テレマクスという修道士がいました。彼はローマに行こうとする使命を受けてローマに行きました。ローマに入った日なぜかローマの町は群衆でいっぱいでした。テレマクスが町に出ている人々に聞いたら丸形(まるけい)の劇場(げきじょう)で剣闘(けんとう)の試合があるからだということでした。その時彼はこう考えたそうです。‘イエスキリストが来られて 4 世紀もすぎたのにいまだにお互いを殺すゲームなどをするのか!’彼はすぐさま丸形劇場に走り込みました。中に入ると死を覚悟した剣闘士たちが“シーザー万歳!我々はシーザー様のために死にます。”と叫んで戦おうとする瞬間でした。その時テレマクスは競技場に走りこんで二人の剣闘士たちの間に立て“イエスキリストの御名によって言います。戦わないでください。”とさげびました。すると群衆たちはそんなテレマクスに腹が立てたのか“彼をさきに殺せ。殺せ!”とさげびました。瞬間一人の剣闘士が剣の後ろのほうで彼のお腹をうち彼は倒れました。しかし彼はもう一度立ち上がって叫びました。“イエスキリストの御名によって言います。戦わないでください。”すると群衆はさらに興奮して“殺してしまえ!早く早く!”群衆から動揺された剣闘士たちは剣を出してテレマクスのお腹を刺し、彼は結局また倒れてしまいました。地は赤い血で染まり始めます。彼は最後の力を出して最後に“イエスキリストの御名によって言います。戦わないでください。”と叫んで死にました。この光景を見ていた 8 万人ほどの群衆たちは騒がしくなりました。そして一人、二人が競技場を離れていき始め数分内に、8 万人のすべての群衆たちは全部競技場を立ち去りました。驚くべきことはこれがローマ歴史上最後の剣闘の試合だったという事です。その後ローマで命をかけた剣闘の競技はなくなったそうです。結局テレマクスは自分を犠牲する事によって人間の命を担保にした剣闘の競技を終わらせたのです。

##### 2. 平和をつくるために十字架の信仰と精神を实践することは差別なくすべての人と平和を追い求めることです。

聖書は我々にこう命令をしています。“もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい”(ローマ人への手紙 12:20—21)。

マタイの福音書 5 章 44 節から 45 節では敵を愛し、迫害する者のために祈る人は天におられる父の子供とされると言われました。そしてそこだけではなく聖書は“あなたがたは、自分に関するかぎり、すべての人と平和を保ちなさい(ローマ 12:18)。”ヘブル人への手紙 12 章 14 節では“すべての人との平和を追い求め、また、きよめられる事を追い求めなさい。きよくなければ、だれも主を見る事ができません。”とつよく語っています。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん!私たちが平和をつくる時“やすっばい恵み”に陥ってはいけません。平和がないのに“平和がある、平和がある。”と叫ぶ事はにせ預言者たちがしたことであって、自分はなんの労苦や犠牲を払わないで神様の平和が自然に臨まれることを期待してはいけません。神様は平和をつくるためご自分の一人子の血と命を全部注ぎだしました。神様がくださる平和の代価はイエスキリストの血潮です。それは計算しきれないほどの無限の代価であって、最上の代価を私たちのために払われたのです。そういうわけですから、私たちに与えられている神様の犠牲を知っているなら、平和をつくるために私たちは赦したくない人さえも赦し、和解したくない場合も和解しなければなりません。お互い告白することがあれば告白し、あやまることがあればあやまり、精算すべきことは精算する事によって赦しと和解の労苦を通して平和をつくる者になることこそ神様の願いではないでしょうか。

### **3. 平和を保ち、体験するためには何よりも平和の福音である十字架の福音を直接伝えることが大事です。**

神様が下さる御霊の実の中でも一つであるこの平安、平和というのは変わることはないことを意味します。私たちの感情的な安定ぐらいのものではありません。聖書で言う平安というのは人によるぐらいのものではありません。力があります。自分自身と他人をかえる力があります。神様からの平安は自分の人生においてどんなにむずかしい問題がやって来て苦しい時があってもゆるがないのです。人による関係の葛藤と悩みがあっても、むしろ、自分自身にある平安によってその人たちとも平和の関係にさせる力があります。ですからイエスキリストによる信仰によって神の平和を味わった私たちは、ほかの人たちもその平和を味わうようにこの平和の福音を直接伝えなければなりません。ヨハネの福音書 17 章でイエス様が弟子たちと私たちのために祈られた中で“真理によって彼らをきよめ別ってください。あなたのみことばは真理です。その真理によって彼らを一つにさせてください。”と祈られました。私たちに与えられているこのイエスキリストの福音をとおして断たれた神様との関係が回復され、一つにされる真の平安と平和を取ることができることを忘れないで下さい。

### **< 5. 平和をつくる者への祝福 >**

神様は私たちが自分の信仰維持だけに満足しながら生きる事を願われません。自分に与えられているこの福音をもって平和をつくっていくピースメーカーになることを願われます。イエス様は国家間の平和も、社会間の平和も、家庭内の平和すら経験されたいこの世で、私たち自分が平和をつくる者としての使命を与えてくださいました。そして平和をつくる者になることは私たちにも祝福であることをイエス様は教えてくださっているのです。私たちが平和をつくと私たちは神様の子供と(原語の聖書では子供たちという複数形が使われている。)呼ばれるのだと約束されました。

神の子供たちと呼ばれるという事は特定の善行を行う事によって神様の子供ではない者たちがいきなり、神の子供とされる意味ではありません。つまり、なにかの行いによって神の子供とされる形で理解してはいけません。イエス様を信じる事によって私たちは神の子供とされるので、この信仰さえもっていれば、私たちはすでに神様の子供とされました。

さて神の子供と呼ばれることはどんな意味でしょうか。

神様の子供としてふさわしい者だと認められるという意味です。神様の子供たちが神の子供らしく生きる事により神様をあらわす事になります。

聖書で‘息子’という言葉は‘父に似たもの’を意味します(ヨハネ 5:18)。ですから平和をつくる時はまさに平和の神に似ていくことであり、平和の王として来られたイエスキリストに似ていく祝福をいただくことになるのです。私たちも天におられる父の愛をみならって隣人を愛し、平和をつくる者になっていきましょう。平和をつくることが天国の市民の日常的姿になるようにしましょう。今日、愛の主であるイエスキリストは私たちにも平和を求めておられます。平和をつくることが時には難しいときもあり、大変でくるしい時もありますが、忍耐をもって平和をつくって行こうと努力していくとき神様の子供として私たちは神様にふさわしい栄光をお返しできると信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！イエスキリストの十字架の血潮を通して神様と平和を保つようになった人々はまた改めて今日から私たちも、自分との平和、家庭との平和、教会の平和、社会の平和、国家の平和、世界の平和のつくる架け橋の使命を果たすことによって神の子供たちと呼ばれるクリスチャンプレイズチャーチの一人、一人となりますように主イエスキリストの御名によって祝福し祈ります。アーメン!